

# 三心を磨く

学校だより NO. 42  
平成30年11月5日(月)発行  
須坂市立東中学校  
文責：金井 勝久(教頭)  
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## ◇学校の様子から…～引継ぎを前に、生徒会活動さらにパワー・アップ！～◇

東祭が終わって1ヶ月、生徒会活動はとどまることがありません。むしろ「より活発」になっている感じさえ受けます。エコキャップや空き缶収集では、「全校100%達成!!」をめざし、手洗いやハンカチの所持率、給食の準備の様子でも「全校100%達成!」を頑なにめざす3年生の姿には、「終わりを予想した覚悟」が感じられます。

11月下旬には「生徒会役員選挙」が行われます。

それに伴い、10月中旬から選挙管理委員会が動き出し、立候補者が決まり、選挙ポスターも掲示されています。そして来週からは候補者の教室訪問も始まります。3年

生はその動きを敏感に感じ、自分たちに残された時間を実感し、「やり残したことをやり遂げよう」「後輩たちに自分たちの姿で語ろう」「先輩たちが守ってきた伝統と自分たちが始めた新たな伝統を引き継いでもらおう」と考え、最後の挑戦と頑張りを示しているのです。「ありがたいな」「やるな、3年生!」と感じます。そんな中で、「美しい学校」をめざし、清掃向上週間を定期的に行い、縦割り清掃に組み込みながら「清掃の質の向上」をめざす美化委員会の姿がります。現在の本校の清掃は、1年生から3年生・職員のすべてが10分間、黙々と清掃をしています。その姿は爽快です。この3年間で、どんどん進化していく清掃、2年生もきっと引き継いでくれることでしょう。

現3年生が中心となって活動する生徒会は、12月までです。自分たちの想いのすべてを、その言葉や行動、その姿で後輩たちに語りかけてほしいと願っています。

## ◇◇落ち葉の季節になりました!～落ち葉と格闘する生徒たち～◇◇

10月に入り、朝夕の寒暖の差がさらに激しくなってきました。それが理由なのかはわかりませんが、野山の木々の紅葉が進み、落ち葉が増えてきました。写真は中庭清掃の様子から1枚、今年も担当は1年生の姿ですが、いよいよ「落ち葉のシーズン到来!」ということで、落ち葉と生徒たちとの格闘が始まりました。

本校の中庭には、新校舎の完成と同時に植えられた「欐の木」が堂々と鎮座し、その他にも「園里黄桜」や「もみじ」、「藤」、「栃」「モクレン」などの木々が根付き、大きく、そしてたくましく生い茂っています。

中でも「欐の木」は、すでに「大木」の域に達しています。この欐の木は、夏には素敵な日陰や木漏れ日を生み出してくれるのですが、一転、秋は「山のような落ち葉」を中庭に敷き詰めます。そんな季節がいよいよやってき



たのです。

今年の1年生は「総勢46名」。現在、2年生が55名3年生が66名ですから、昨年より10～20名減少していることとなります。この人数減は、清掃分担区に直接響いてきます。今年の計画では、毎日中庭掃除はできません。しかし、「落ち葉」の最盛期のまさに「今」です。「中庭、最優先！」のシフトに変えて、1年生と落ち葉の片付けとの格闘が始まりました。落ち葉は、まだまだ始まったばかりなのですが、掃いても掃いてもすぐに落ちてきます。掃いている最中にもひらひら落ちてきます。

「やっときれいに掃いたのに…」「まだあんなに葉っぱがあるよ」「昨日きれいにしたところなのに…」「掃いてもきりがいいよ」などという声があり、「でも、落ち葉掃き、案外楽しいじゃん」「掃くときれいになるから、キレイに掃いた実感がわいてくるよ」などといった声も聞こえてきました。生徒たちの気持ち、よくわかります。

10分間という短い時間の清掃の中での落ち葉掃き、毎日職員も応援に駆けつけています。職員と生徒とが一緒に落ち葉を掃き、落ち葉を片付けています。この落ち葉がすべて無くなる頃は、中庭には白い絨毯が敷き詰められることでしょう。深まり行く秋を感じますね。



【師弟同業、生徒と職員と一緒に落ち葉掃き】

## ◇東三校職員研修会が行われる！～東地区小中連携の一貫として～◇

11/1(木)、本校を会場として、東三校職員研修会が行われました。仁礼小・豊丘小、そして本校の職員が集まり、本校の生徒たちの学ぶ姿と一緒に参観し、小学校から中学校へと連続する学びを考えました。

今回の授業提供学級は、1年1組(理科)、1年2組(社会)、2年2組(英語)の3クラス・3教科で行われました。普段通りの授業を参観いただき、普段通りのICT機器を活用した、協同的な学びの姿を参観いただきました。

小学校の先生方の声からは、「1年生は、この半年ですごく成長した気がする」「こんなに活発に話し合えるようになったのですね」「とにかく仲良く、明るい生徒たちですね」「男女を問わずかわりながら活動したり、相談したりしている『動き』のある姿、活動的な姿が印象的で、日常的に協同的な学習が行われている姿を感じました」といった言葉がありました。

また、「東中の授業には、ICT機器が自然に位置付いている」「生徒たちがICT機器を使いこなしている」といった、ICT機器を活用した授業によせる意見交換も行われました。

さらに、東中学校を含む東地区はもちろん、須崎市や長野県で課題となっている「活用する力」(全国学力・学習状況調査B問題など)をつけるためにどんな取り組みをするのか、小中の連携でできることは何かについても考えました。

現在、仁礼小や豊丘小の6年生も、本校の生徒たちと同じように「斜面の書き写し」を行い、合わせて紙面に出てくる難語句調べやまとめとしての感想に挑んでいるとのことでした。本校の取り組みを、小中が連携して行っているのです。この取り組みで、読解力やまとめる力が間違えなく向上していることが明らかとなっていますので、これからも小中の連携として続けていきます。また、小集団でのグループ学習、協同的な学習をすすめる、自分の考えをアウトプットできる機会を増やし、問題解決に挑んでいきます。

「学問の秋」と言いますが、生徒はもちろん、職員も日々学ぶ毎日、まさに「学問の秋」を満喫しています。

